

第 10 回 PN 研 「公園での市民参画と公園マネジメント」

日時：平成 21 年 3 月 27 日 18：30～20：30

場所：神戸市勤労会館 4 階 405 号室

参加者：18 名

1. 話題提供

「公園での市民参画と公園マネジメント」 (株)公園マネジメント研究所 長谷川利恵子
これまで約 20 ヶ所の公園や里山で市民参画の活動支援を行ってきましたが、市民参画を進めるだけでは、解決できない課題も多く、今回の PN 研での検討課題として、話題提供させていただきました。

公園内の市民参画で、次のような様々な活動を行うことができました。

話し合って公園の課題解決や活性化の方法などの提案（考え系）

多くの人に公園に親しんでもらうためのイベントの実施（イベント系）

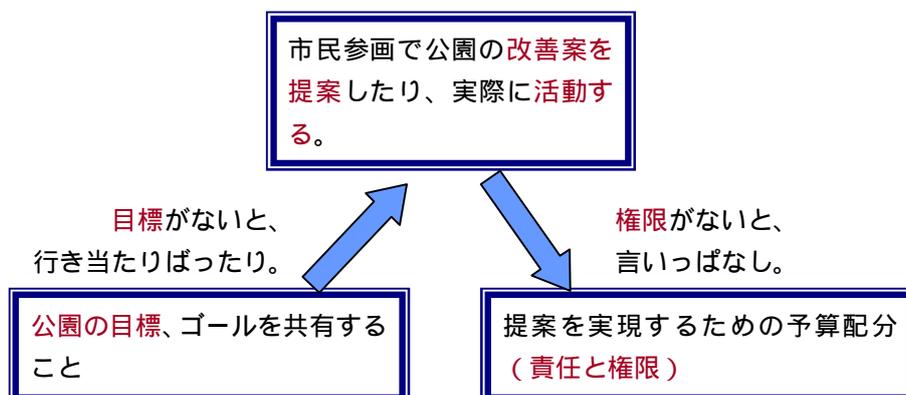
講習会や自然観察会など公園の魅力を発見したりや体験する活動（学び系）

ベンチやサインなど公園施設の整備作業（作業系）

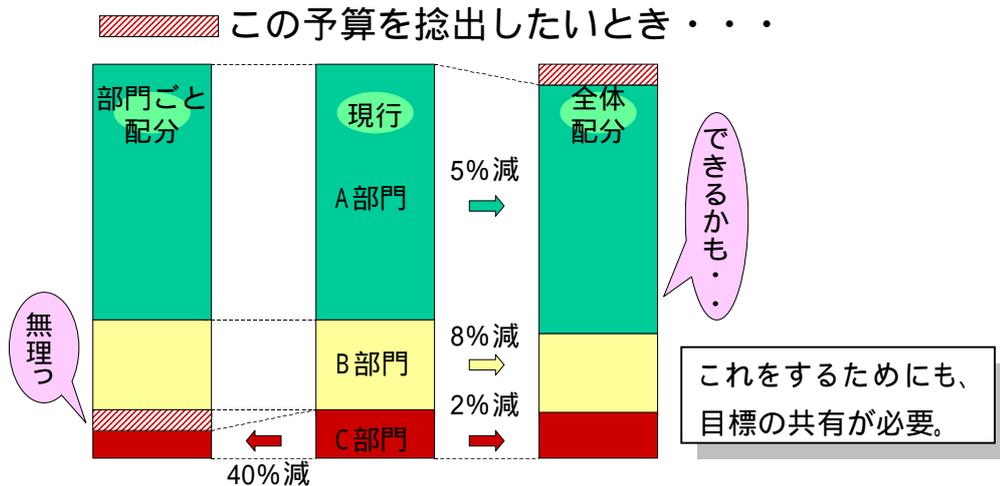
花壇の手入れや草引きなど継続的な維持管理作業（働き系）

しかし、活動当初は公園の改善につながったり市民が公園のことを考えるきっかけになったりしましたが、「公園の目標」がないと、行き当たりばったりの活動になったり、継続していくうちに何のための活動なのかわからなくなってきます。また、だんだん「やること」自体が目的のようになってきます。「どんな公園になりたいのか」公園の目標を明確にする必要があります。

また、市民が提案した公園改善のアイデアについても現在は言いつぱなしになっていることが多いようです。様々な意見を実現するための意思決定とそのための適切な予算配分が必要です。予算については総額が決まっていますから、どこかを圧縮して新しい費用を捻出するためのやりくりが必要です。余裕があればやる、ではいつまでたっても実現しません。何が重要なのかを判断する公園の目標が必要です。



公園の予算の適切な配分



<公園での市民参画の課題>

公園の目標設定と目標の共有

提案を実現するための予算配分(責任と権限)

2. 課題解決に向けての討議

上記の課題の解決策について、みなさんから貴重なご意見をいただきました。

公園の目標について

目標設定について

平田先生から、

- ・ 行政が策定した公園の基本方針等は漠然としている。
- ・ これに逸脱しない範囲で、指定管理者の考える「公園の目標」を明確に提案書で打ち出していく必要がある。
- ・ 指定管理者に選定されたら、指定管理者が示した「公園の目標」を行政と共有し、実際の目標に向けて管理を進める。さらに、管理の過程で目標をブラッシュアップしていく。目標は管理者が変更しても継続して持ち続けるようにしたい。
- ・ 公園の目標は「公園の憲法」として、文章で表現しておくべき。

目標の共有について

実際に指定管理者として公園を管理しているみなさんから、

- ・ 文章に書いたり絵などで表現したりしても、なかなか共有できない。例えば、「里山」といってもその詳細のイメージは人それぞれになってしまう。
- ・ そのため、目標を共有する場(時間)が必要で、指定管理者と市民が話し合いながら目標を共有していくことが大切。
- ・ 日々、目標を刷り込んでいく、意識付けしていくこともしたらどうか(社訓のように掲示しておく、朝礼で斉唱する、など)。

予算の配分、仕様書と実作業のギャップ等について

- ・ とりあえず仕様書どおりの回数はこなして、必要に応じて回数を追加している(ただし、回数が増えても増額はないので、必要な部分を見極めて適宜行っている)
- ・ イベントなど提案書で書いたものの、公園の状況で実施できなかったものについては、行政と協議して変更したりしている。
- ・ 仕様書にない項目(枯れ松の伐採処理)で必要な作業は行っているが、増額になるわけではなく、大きな負担になっている。
- ・ 何に重点的に予算を配分していくかは、指定管理者のグループで話し合っていて決めている。
- ・ 「公園の目標」達成のために、適宜、予算を変更していくことは必要である。

その他

- ・ (株)公園マネジメント研究所では、日々の公園管理情報を「日報システム」で管理しています。今後は必要な公園情報を公開し、利用者と双方向で共有していく新しいシステムを開発中です。先日の嶽山先生のパークスキャンの話を受けて、そのへんのご報告をしようと思ったのですが、まだお見せできない状況なので、今後お知らせします。
- ・ 今回は、札幌市立大学デザイン学部長 吉田恵介先生にもご参加いただきました。平田先生と建設省時代にごいっしょだったそうです。札幌市立大学は、平成 18 年に開校した新しい大学です。そこで吉田先生が市民参画でイベントをされるとき、「市民が自分のしたいことをする」ことを大事にしているそうです。

(記録：長谷川利恵子(株)公園マネジメント研究所)